

加工部際立つグラス制作

陶器販売の明和窯金陶苑

塗料吹き付けレーザー加工

陶器販売の明和窯金陶苑（本社多治見市明和町3の1の172、若尾侑史社長、電話0572・27・5111）は、ガラスに金や黒の塗料を吹き付けてレーザー加工を施したグラスを制作している。レーザー加工機による名入れに強みがあり、土台のガラスに色を付けることで加工部分を目立たせている。企業のノベルティとして提案するほか、小売店や自社オンラインショップでの販売も予定する。

（東濃・伊藤綾音）

ノベルティとして提案



金と黒の塗料を吹き付けてレーザー加工したグラスを見せる若尾社長

ガラスに金の塗料を吹き付けて固め、黒の塗料を重ねてレーザー加工すると、文字やロゴの部分は上の黒い塗料が削れて下の金色が現れる。ほかに銀と黒、金と赤、銀と赤の組み合わ

せもある。小売価格は2千円、ペアにして4千円で売り出すことも想定している。

より小ぶりなショットグラスも、土産店でインバウンド（訪日客）が購入するため提案している。小売価格は1500円を見込む。

若尾社長は「自由に文字

1986年設立。従業員数は15人。家庭用や業務用の食器を販売する。レーザー加工機やUVプリンターを保有し、多様なデザイン

と話している。
やロゴを入れられるのが強み。透明なグラスでは目立つことないと考え、色を付けてコントラストを出した」と話している。

ちにないと考え、色を付けてコントラストを出した」と話している。

